ふくい歴史かわら版

松平忠直、鳥羽野の開発に着手！

大坂夏の陣での活躍後 新集落「鳥羽野新町」を形成

第2代福井藩主・松平忠直が、荒廃していた鳥羽野を開拓し、新しい町を形成。大坂夏の陣では比類のない軍功を挙げ、藩内では内政充実を図るため、その手腕を発揮した。

大坂夏の陣図屏風（大阪城天守閣蔵）

浄土寺蔵
画像提供：大分市歴史資料館

松平忠直（まつだいらただなお）
文禄4（1595）年～慶安3（1650）年
初代福井藩主・結城秀康の長男。慶長12（1607）年に2代藩主に就任すると、大坂夏の陣では一番の功績を挙げる。その後、この功績の処遇に対して幕府との確執が生じるが、藩内では鳥羽野の整備を完成させるなど、内政に力を注いだ。

酒色に溺れ、幕府の命に背き、藩主の座を追われた暴君としてのイメージが強い松平忠直。しかし、その実像は謎に包まれ、名君だったとの伝承も少なくない。

忠直は、慶長12（1607）年、父・結城秀康の死に伴い、13歳で越前松平家67万石を相続。慶長16（1611）年には、二代将軍・秀忠の三女、勝姫を正室に迎える。

就任後、家中の重臣同士が対立する「久世騒動」が起きたが、秀康以来の悲願だった鳥羽野（現鯖江市）の開発を進めるなど、内治に力を注いだ名君として慕われていたとされる。

当時、鳥羽野は原生林が生い茂る日中でも薄暗い原野で、山賊などが出没する、旅人も恐れる交通の難所であった。そこで忠直は、まず北陸街道の整備に着手。街道沿いに家を建てる者には敷地を与え、さらに課役を免除するなどして集落形成を進めた。その結果、次第に人家が建ち始め、商工業を営むものが集まり、二百数十戸が並ぶ「鳥羽野新町」へと成長していった。

また、忠直は、大坂夏の陣では敵将の真田幸村を討ち取り、大坂城一番乗りを果たすなど武将としての力量も備えていた。この軍功に祖父・家康は「天下に並ぶもののない功労」と称賛し、民衆の間でも「かかれかかれの越前衆、たんだかかれの越前衆、命知らずのつま黒の旗」

大坂夏の陣の恩賞として与えられた「初花の茶壺」（越葵文庫蔵 福井市立郷土歴史博物館保管）

忠直が妊婦の腹を裂く際に用いたとされる「まな板石」。実は昭和9年の護岸工事の際に掘り起こされた石。

という言葉が流行したほどであったという。

ところが、領地を加増するという約束とは異なり、恩賞として与えられたのが「初花の茶壺」のみであったことから幕府への不満が募ると、参勤交代を怠り、人を斬り裂くなどの奇行が目立つようになったとされる。そして、元和9（1623）年、幕府に隠居を命じられ、豊後（現大分県）に配流処分となる。忠直はおとなしく幕命に従い、出家して一伯と称した。配流先の豊後では、子どもたちにも囲まれながら平穏に暮らしたという。

こぼれ話
豊後での忠直

豊後に配流された忠直（一伯）は、近隣の寺社に数々の寄進を行い領民と親しくするなど、たいへん慕われていたという。その様子は、現在、彼が茶席において用いていた菓子をモチーフにした「一伯」が大分の銘菓となっていることからもうかがえる。また、菓子には越前松平家の家紋である葵紋が刻まれている。

トピック

乱行の暴君か、悲劇の名君か、忠直失脚の謎

忠直の失脚は、将軍位をめぐる権力闘争が原因ではないかという説があり、乱行も、当時の記録にみられる矛盾や不正確さから、意図的に流布された虚構である可能性が指摘されている。

家康の長男・信康は織田信長の命により切腹。本来なら次男の秀康が二代将軍に就くはずであったが、秀康は秀吉、さらには結城家の養子となったため、二代将軍には三男の秀忠が就任。秀康の長男である忠直は、秀忠にとって油断のできない存在だったと考えられる。

ちょうどこの時期（1622年12月）、平戸のイギリス商館長だったリチャード・コックスは手紙で、「皇帝である将軍様その人に対し、日本で最大最強の8、9人の大名による大陰謀が発覚した」とし、その中には「皇帝自身の兄弟や最も近い近親者」もいると記している。のちに新井白石も、家康の側近だった本多正純の失脚の真相は、「越前の忠直を擁立しようと謀ったこと」にあると語っている。

このことから、世が世なら将軍になっていたであろう忠直が幕府に背くことで、徳川家の結束力が崩れることを恐れた幕府が、事前に忠直ら関係者を処分したとも考えられる。事実、元和8（1622）年に宇都宮の本多正純が改易、翌元和9（1623）年に忠直が豊後に配流と、反乱側にいたとされる有力者が次々に処分されている。そして秀忠の子・家光が三代将軍に就任したのは、忠直の配流からわずか5か月後のことであった。

こぼれ話
忠直の恩恵を後世に

遠く豊後での忠直の死を知った鳥羽野の人々は嘆き悲しんだ。そして、忠直の恩を後世へ伝えるため、豊後まで赴き、埋葬地の土を持ち帰って長久寺（ちょうきゅうじ）境内に墓を建てたという。

忠直の墓。長久寺は、鯖江市の文化財に指定されている。

〈参考文献〉
■「松平忠直卿」 黒田傳兵衛著 福井県郷土誌懇談会
■「NHK歴史への招待32」 鈴木健二 日本放送出版協会
■「忠直配流」 杉原丈夫